

ライザップ、 医療ビッグデータ活用サービス提供に関するお知らせ

健康コーポレーション株式会社(本社・東京都新宿区、代表取締役社長 瀬戸 健)の子会社である RIZAP 株式会社はこのたび、医療ビッグデータに基づく統計モデルを活用したサービス提供を開始することを決定いたしましたので下記のとおりお知らせいたします。

1. 本取組みに関する背景

2020年には4.4兆円に成長するとされているヘルスケア関連の市場の中でも、予防医療市場の重要性はさらに高まっております。この成長要因としては高齢化とそれに伴う慢性疾患の増加があげられます。主な生活習慣病の受療率(人口10万人あたりの患者数)をみると、一般に50歳を超えると増加し、75歳以降にピークを迎えます。この患者数は、今後、高齢者人口の急増により、さらに増加することが予測されます。

こうした中、医療費負担の問題の深刻化を受け、政府も、「日本再興戦略」改訂2014(平成26年6月24日閣議決定)にて、一定の健康基準を満たした個人へのヘルスケアポイントの付与・現金給付等や、個人の健康・予防に向けた取組に応じて健康保険料に差を設けるインセンティブ導入の検討を表明するなど、生活習慣病対策やスポーツ促進、健康管理・増進、病気を未然に防ぐセルフメディケーションのニーズは、今後、ますます盛り上がりを見せるものと思われれます。

RIZAPにおいても、「ゲストの皆様の人生が健康で自己実現の可能性にあふれるよう生涯パートナーであり続ける」を理念として、先端の解剖学、運動力学、生理学、栄養学の理論に基づくプログラム提供や、医療機関連携により、メタボリック症候群の予防改善を通して社会全体が健康となるように全力で取り組んでおります。

こうした背景を踏まえ、今般、医療ビッグデータを活用する取組みを開始することで、ゲストのお客様のセルフメディケーションニーズを捉え、さらに医療費増大という社会問題にRIZAPとして取り組んでいくため、本サービスの開始を決定いたしました。

2. 取組みの内容・効果

本取組みの内容としては、ゲストの皆様の健康数値の変化を可視化し、その数値を基に医療ビッグデータ分析を行うことで、将来的な医療費負担額の軽減を予測するものであります。

具体的にはRIZAPが提供する「DEMECAL(※1)」などにより取得したゲストの皆様の血液検査データや体組成計データを、統計解析モデルと連動させることにより、将来かかる医療費負担額を推計し、さらにRIZAPサービスにより、負担額軽減がどれだけ期待できるかを可視化するものとなります。(※1) DEMECALはリージャーが提供する血液検査製品&サービスの総称です。

この統計解析モデルは、健康データの解析・統計モデリングを専門とするヘルスデータ・プラットフォーム株式会社(所在地:東京都港区 代表取締役社長:中村 大介)が、医療ビッグデータ分析をエビデンスとして開発したものであり、健康診断結果に基づいて医療費の予測値や健康年齢を算出する統計モデルです。

本取組みにより、お客様の将来的な医療費負担に対する注意喚起を促し、より健康意識を高めることで、より健康的な社会作りにも貢献できるものと考えております。

また、RIZAPとしても、医療費負担の観点から、サービスの費用対効果をご説明することができ、カウンセリングに来られたお客様に安心して第一歩を踏み出していただくことができるメリットがあることに加えて、科学的見地及び医学的見地の双方からより精度の高いトレーニングを提供することが可能になると考えております。

今後、予防医療領域への市場拡大、医療機関と提携した成長する高齢者市場の顧客基盤の獲得、医学的見地を活用した学術ノウハウの取得など医療分野への進出をさらに加速していく予定です。

RIZAPサービスそのものが、社会問題視される生活習慣病予防や改善に向けたソリューションとして治療に貢献し、大きな社会問題の解決の一手となるよう取り組んでまいります。

